

理解力・記銘力低下患者のインスリン手技習得に向けての チームアプローチ

看護部：柿宇士 敦子

一般病棟独自のターミナルケアの実際 ～看護師の語りからケアの意味を探る～

6-3病棟： 畑中 美乃 小西みゆき
鈴木 直子 下山 美穂
静岡県立大学看護学部： 原澤 純子

I. はじめに

日本における緩和ケア病床は増加し、がん患者の約90%は一般病棟で死を迎えている。A病院には緩和ケア病棟がなく、混合外科B病棟でも短期入退院を繰り返す患者に、初期治療からターミナル期まで関わっている。研究者らは、一般病棟では十分なターミナルケアができないのではないかと感じていた。先行研究にも一般病棟におけるターミナルケアに対し、看護師がジレンマ・ストレスを抱えたり、看護師の満足度が低いという結果がある。しかし、実際患者が亡くなるまでのプロセスには、よいケアができたと感じることもあった。それを受け、一般病棟独自のターミナルケアの実際があるのではないかと考えた。一般病棟においてどのようなターミナルケアの実際が行われているかについて探究した研究はない。

II. 研究目的

一般病棟において、どのようなターミナルケアを行っているかを明らかにし、ケアの意味を探る

III. 研究方法

1. 研究デザイン：質的記述的研究
2. 対象・条件：看護師6名。看護師経験年数は5年未満2名，5年以上10年未満2名，10年以上20年以上2名。
3. 期間：2011年4月より1年間
4. データ収集方法：フォーカスグループインタビューを3回実施した。
5. データの分析方法：逐語録より、ターミナルケ

アの実践について語っている部分を抽出し、意味を損なわないようコード化し、意味の内容の類似性に沿って抽象度を上げ、サブカテゴリ及びカテゴリとした。

IV. 倫理的配慮

倫理審査委員会の承諾を得た上、研究協力者に、調査の目的・方法と倫理的配慮を書面・口頭で説明し了承を得た。

V. 結果及び考察

カテゴリは【長い経過の中でタイミングを大事にしながら患者と共に揺れ動く】【忙しくても何かしたいという思いを強く持ち、今できることをする】【治療とターミナルケアが混在する中で、みんなが同じ方向を向くようにあの手この手を使う】【日々の関わりの中の言葉や空気で患者を感じる】【生と死が混在する場でケアを行う】の5つから構成された。

5つの構成から以下のことを考察した。

1. 長い経過の中で、患者が悩んだり迷ったりを繰り返す過程を共に揺れ動く。
2. 時間的優先度に縛られながらも、やりくりして性質の違う時間を行き来する。
3. 「あの手この手」を使い、患者・家族・医療者間の見解のズレの調整を図ろうとする。
4. 一般病棟という環境自体が、生の雰囲気を感じることができ、患者や家族に安心を与えている可能性がある。

表1 一般病棟独自のターミナルケアの実際

カテゴリ 1	長い経過の中でタイミングを大事にしながら患者と共に揺れ動く	
サブカテゴリ	コード	
患者・家族にとってどうすればいいんだろうと考え、共に悩みながら関わる	患者の立場で考える	
	直接患者に聞いてみる	
	未経験の死に対して(看護師が)様々な思いをめぐらす	
	死にゆく中での希望を肯定する	
	その人がどうありたいんだろうと考える	
	どう言葉をかけていいのかわからない	
	患者の負担を考えると退院を積極的に進められない	
	その人にとってどこで死ぬのがいいか悩む	
今何をすべきかのタイミングを大事にする	患者と一緒に悩みながら進んでいく	
	今何をすべきかわかる	
	毎日の関わりの中から見えてくるタイミング	
	患者の変化があったときは、看護師が介入するタイミング	
長い経過を見据えた付き合い	タイミングを感じる	
	今後の経過がわかる	
病状や状態を見てターミナルと感じる	この人だったら言えるって人を作っておきたい	
	長い経過を見据えた付き合い	
今まで通りできるようにするのではなく、受け止められるようにする	症状や状態を見てターミナルと感じる	
	足りないところをフォローする	
	自然な流れを作る	
今まで通りできるようにするのではなく受け止められるようにする		
カテゴリ 2	忙しくても何かしたいという思いを強く持ち、今できることをする	
サブカテゴリ	コード	
状態が悪化すると何かしたいという気持ちが大きくなるから忙しくても<いいや>にしない	(患者の) 厳しい状況の中で希望を実現させる	
	ターミナルの患者に気持ちが大きく入る	
	何かしなきゃ何かしたい	
	忙しくてもいいやにしない	
死のプロセスに関わることは看護師として必然だけど気にかかる	チームで協力して患者の思いを遂げる	
	死のプロセスに関わることは看護師として必然	
非常に死を近くに感じる時はより気を配る		
カテゴリ 3	治療とターミナルケアが混在する中、みんなが同じ方向を向くようにあの手この手を使う	
サブカテゴリ	コード	
様々な価値観を持つ医師とのズレを、理解しようと努力しながら、いろんな手を使い医師を巻き込む。	医師のターミナルの捉え方を知る	
	医師との情報共有が少なくズレが生じる	
	医師が受け入れられるようなアプローチをする	
患者・家族・医療者が同じ方向を向けるよう、それぞれの思いを汲みとりつつカンファレンスを繰り返す。	カンファレンスで情報を共有し、方向性を統一する	
	医師と家族・患者間を看護師が調整する	
	残される家族が心残りを持たないようにする	
みんなが同じ方向を向く		
カテゴリ 4	日々の関わりの中の言葉や空気で患者を感じる	
サブカテゴリ	コード	
患者との何気ない日常会話の中にその人らしさを見る	病気の話だけでなく普通の会話をしたい	
	ちょっとした関わりの中で患者が語ること	
言葉だけではなく患者を感じる	言葉だけではなく患者を感じる	
	特別なことをする人ではなく、つらいときにそばにいる	
	そろそろって思う時期は患者自身が準備する	
カテゴリ 5	生と死が混在する場でケアを行う	
サブカテゴリ	コード	
生と死が混在する場でのケア	病院は家族の負担を軽減する	
	何人も見送った人がそばにいることが安心感を与える	
死と回復が混在している	死だけじゃない、生がある病棟	
	病院で死ぬことは普通になってきている	